

茨城県立こども病院だより

令和3年3月31日 第51号



表紙写真：新生児救急車(ラッコ号)

指定管理者 社会福祉法人 済生会支部茨城県済生会

訪問看護スタート

「退院したこどもが地域で安全に安心して生活できるように、多職種や地域と連携し支援を行う」を目的に2019年4月にこども病院 成育在宅支援センター内に訪問看護部が設置されました。

退院後、医療的ケアを必要とするこどもや終末期を迎えるこどもの自宅を訪問し、安全に安心して地域で療養できるよう、こどもの病態や家族の介護力等を考慮しながら、在宅での医療的ケア方法や生活環境等を確認しています。また、こどもの心身の機能の維持回復および生活機能の維持又は向上を目指し在宅療養を継続できるように支援しています。

私たちは入院したその日から在宅移行を目指し、医師・病棟看護師・退院支援看護師・ソーシャルワーカーなど多職種と連携しています。退院前カンファレンスでは、家族や地域の訪問看護ステーションなどと一緒に退院後の生活について話し合いをし、医療的ケアの内容や家族の手技獲得状況の確認や、こどもや家族の希望に沿ってご自宅での生活の援助ができるようにしています。「退院後、間もない時は今の状態が大丈夫なのかかわからず不安だったが、いつも見てくれていた人が自宅に来てくれることでとても安心した」という家族からの言葉がありました。

退院後に地域の訪問看護ステーションと一緒に同行訪問をさせてもらうこともあります。入院中の情報やケア方法などの情報を共有し、いつもの様子を伝え知ってもらうことで地域との架け橋としてこどもと家族が安心して生活できる



よう協力し、支援しています。今後も地域と協働し学び合える支援体制を構築し、小児看護の知識や技術の向上につなげていきたいと思っています。

こども病院で訪問看護が始まりました！

退院後、安定し快適な生活を過ごすために 患者さんやご家族のご要望や心配ごとを一緒に考え暮らしの支援をさせていただきます。

次のような方に訪問を行います

- ♥ 長期入院の経過を経て退院した方
- ♥ 入退院を繰り返す方
- ♥ 医療的ケアを実施している方
- ♥ 医療的ケアが増える可能性のある方
- ♥ 在宅生活で困りごとのある方

など、退院後の生活で不安な事があればお気軽にご相談下さい

成育在宅支援室まで

地域医療支援病院承認



当院は、茨城県知事より、令和2年11月27日付けで「地域医療支援病院」の承認を受けました。今後、さらに地域全体の医療の質向上を図り、地域の患者さんにより良い医療を提供できるように努めます。

○「地域医療支援病院」とは

地域の病院や診療所の医師から、より詳しい検査や専門的な医療が必要と紹介された患者さんに対して、適切な医療を提供することを目的に県知事の承認を受けた病院です。

主に、紹介患者に対する医療の提供、24時間体制による救急医療の提供、医療機器などの共同利用、地域の医療従事者の質向上を図るための研修会などの開催など、地域医療の中核を担う役割があります。

○「地域医療支援病院」としての当院の主な役割

• 紹介患者に対する医療の提供

かかりつけ医などから紹介された患者さんを受け入れ、症状が安定したら、かかりつけ医のもとでその後の経過を見ていただきます。

• 24時間体制による救急医療の提供

救急患者を積極的に受け入れ、特に県央県北の小児中核病院として、二次・三次救急患者を受け入れます。また、県央・県北の小児科医不足の状況を踏まえ、時間を午前3時までに限定して初期救急にも対応します。

• 医療機器などの共同利用

当院の医療機器（コンピュータ診断撮影装置（CT）、超音波診断装置、脳波検査装置）や施設（図書室など）の共同利用を推進しています。

• 研修会等の実施

地域の医療機関の医療従事者などを対象に、研修会や症例検討会などを積極的に開催していきます。

部門紹介

リハビリテーション科



近年、大人・子どもを問わず、「発達障がい」がTVなどのメディアをはじめとして書籍などで、広くクローズアップされています。2012年厚労省・文科省が実施した調査では「16.2%のお子さんたちが、学習面、行動面、もしくはその両方で支援を必要としている」と報告されています。小学校の1クラス（30名前後）では、1～3名のお子さんが、何らかの支援を必要としているということになります。

こども病院リハビリテーション科（以下：リハ科）では、「障がいの有無に関わらず子どもたちが日々笑顔で過ごせるようにサポートする」ことを目標にしています。今回は、当科のご紹介させていただきます。

リハ科の特徴は、超急性期（ICUやNICUで人工呼吸器を装着した集中治療中）から亜急性期（一般病棟や外来）を主に担っている点です。活動は外来と入院リハビリの2つに分けられますが、当院では入院に重点が置かれています。

- 理学療法士（PT）は、入院が中心です。重症心身障がい児（者）肺炎や先天性心疾患の開胸手術後呼吸不全などの呼吸リハビリ、高エネルギー外傷・脳腫瘍などの脳神経外科手術後・血液腫瘍のお子さんの運動障がいなどを担当しています。外来では、入院に続いてのリハビリに加え、運動発達遅滞や染色体異常、脳性麻痺、二分脊椎症などのお子さんで運動発達支援、心臓術後の運動機能評価などを行います。医療的ケア児のリハビリについては、訪問リハビリや重症児デイサービスとの情報共有が課題です。
- 作業療法士（OT）は、入院では、脳炎・脳症・頭部外傷後の急性期高次脳機能障がいや運動障がいに対する評価と治療、長期入院のお子さんに対する発達支援を行っています。外来では、自閉症スペクトラム（以下：ASD）や注意欠陥多動症（ADHD）、限局性学習障害（LD）などの発達障がいを担当しています。
- 言語聴覚士（ST）の入院リハビリでは、重症心身障がい児（者）の嚥下造影検査チームでの評価、新生児・長期挿管患者の経口摂取訓練や構音訓練など、急性期訓練が中心です。その介入は年々増加しています。外来では、入院から引き続いての経口嚥下訓練、言語発達遅滞・構音障がい・吃音などに対する言語発達構音訓練や認知面アプローチを行います。また、OTと協働してASD・ADHD・LDなどのお子さんの介入を行います。

当院リハ科は、2013年4月PT 2名で開設し、まだ歴史の浅い部門です。院内保育園だった部屋をPTリハビリ室へ改装し、何もかもがまさに手探りからのスタートでした。現在は、スタッフPT 5名・OT 3名・ST 1名です。

開設当時1部屋だったリハビリ室も、PT室、OT室①・②、ST室と大きく拡充されました。また、ここ数年の新たな取り組みとして「超急性・急性期リハビリを当院で行い、症状が安定した以後は、地域の医療・福祉リハと同時に協働して地域移行」を進めております。ご家族からは、こども病院へ通院するための負担軽減や、リハビリ頻度の増加などの声をいただくこともあります。今後も、地域連携に向けての御協力をお願いする機会は、さらに増えるのではと思われます。

「小児リハビリの重要性・必要性の認識」が高まり、当入院・外来のリハビリニーズは年々増加し続けております。県央・県北地域の小児リハ、特に急性期リハの拠点として、「わからないことは、こども病院リハ科へ聞いてみようか！」と、こどもたちに携わっている地域の方々から頼りにしていただけるよう、科員一同努力を続けて参ります。今後とも、ご協力をよろしくお願いいたします。



PTリハビリ



OTリハビリ

小児感染症科

2021年1月より、当院でも小児感染症科が設置されました。

院内での役割としては

- ① 感染症診療：おもに専門各科からのコンサルテーション
- ② 感染管理：院内感染対策、医療関連感染対策
- ③ 抗菌薬適正使用支援プログラム：多職種チームによる介入



そのほか研修医・職員教育、微生物検査部門の適正運営、新型コロナウイルス感染対策等に関わります。

地域の先生方におかれましては、複雑な感染症・特殊な感染症・外科領域の感染症・持続する発熱の精査・原発性免疫不全症疑いなどの患者さんがいらっしゃいましたら、引き続き当院にご紹介下さい。

専門各科や小児総合診療科と共に診療させていただきます。

また近年では、抗微生物薬の適正使用は国際的にも国策としても啓発活動が進められており、一般市民にも広く知られることとなりました。

そしてその取り組みは施設単位だけでなく地域単位で行うということが広がっております。

今後、地域の医療機関の皆様とも連携をさせて頂きたく、そのようなお声がけをさせて頂く機会もあるかと思っております。

どうぞよろしくお願いいたします。

よろしくお祈いします



細菌とウイルスってどう違うの?

細菌もウイルスもとても小さな生物です。大きな違いは、大きさと増え方です。細菌はウイルスの約100～1000倍あり、自分でエネルギーを作ります。ウイルスは自分でエネルギーを作れ出せないため、ほかの生物を利用して増えていきます。抗菌薬(抗生物質)は、細菌をやっつける薬です。ほとんどの「かぜ」の原因であるウイルスには効果がありません。

細菌
自分自身で増えることができます

ウイルス
他の細胞の中に入って増えています

かぜのウイルスに抗菌薬(抗生物質)は効きません。

(厚生労働省/AMRリファレンスセンターポスターより)

企画
編集

茨城県立こども病院広報委員会

〒311-4145 水戸市双葉台 3-3-1
TEL 029-254-1151 FAX 029-254-2382
URL <http://www.ibaraki-kodomo.com/>

発行
責任者

茨城県立こども病院

病院長 須磨崎 亮